

2021/10/25 (Mon.) 第132号

日本医師連盟ニュース

日本医師連盟ニュース
－ 発行所 －
日本医師連盟
東京都文京区本駒込6-12-1
SSかごまち301号室
〒113-0021
TEL: 03-3947-7815
FAX: 03-3947-2662
E-mail: info01@nichiiiren.jp

<http://www.nichiiren.jp/>

定価 1年400円 (但し日医連負担金に含む)



高市自民党政務調査会長と政策協定締結
(左から 中川委員長、高市政務調査会長、今村副委員長)

中川日医連委員長は、10月13日、第49回衆議院総選挙における政策協定を高市自民党政務調査会長と結んだ。



高市自民党政務調査会長と会談

中川俊男日本医師連盟委員長は、今村聡同副委員長とともに、十月十三日、自民党本部を訪問し、自民党の政策、公約の責任者である高市早苗政務調査会長と衆議院総選挙に向けての政策協定について話し合い、最終的な確認を行った。締結した政策協定は、「自民党は、新型コロナウイルス感染症対策における有事の医療と、通常の診療を中心とした平時の医療を車の両輪として、国民の生命と健康を守り、ワクチン接種の推進等、一日も早い収束に向けて、全力を挙げて対応する」等をはじめ、四項目についてその政策を鋭意実現するものとし、また、「日医連は、自由民主党補者の当選に向けて一致団結して取り組むものとする」という内容である。

第49回衆議院総選挙 日医連、自由民主党との 政策協定を締結

第49回衆議院総選挙 医師12名当選

十月三十一日投票の第四十九回衆議院総選挙において、今

回、日医連は、総数二百九十名の候補者を推薦、全国の医師連盟が一致団結して支援し、二百五十四名が当選の栄冠を勝ち取った。また、医師資格を有する候補者は三十名で、そのうち十二名が当選を果たした。

医師で前職の安藤高夫氏(自民、東京9)、小松裕氏(自民、東京10)、大隈和英氏(自民、大阪10)ら十八名は涙を飲む結果となった。医師資格を有する国会議員は参議院の十名と合わせ



中川委員長(中央)が林幹雄自民党幹事長代理の選挙事務所を訪問

医師衆議院議員

(敬称略、政党別、五十音・当選回数順)

	氏名	政党	選挙区	当選回数
1	今枝宗一郎	自民	愛知14	4回
2	新谷 正義	自民	広島4	4回
3	三ツ林裕巳	自民	埼玉14	4回
4	国光あやの	自民	茨城6	2回
5	松本 尚	自民	千葉13	1回
6	阿部 知子	立憲	神奈川12	8回
7	中島 克仁	立憲	比例南関東	4回
8	吉田 統彦	立憲	比例東海	3回
9	伊東 信久	維新	大阪19	3回
10	阿部 弘樹	維新	福岡4	1回
11	仁木 博文	無	徳島1	2回
12	米山 隆一	無	新潟5	1回

中川日医連委員長

後藤厚労大臣、山際経済再生担当大臣、堀内ワクチン接種推進担当大臣と初会談

中川俊男日本医師連盟委員長は、今村聡、松原謙二、猪口雄二各副委員長とともに、十月十二日に厚生労働省で後藤茂之厚

生労働大臣と、翌十三日に中央合同庁舎で山際大志郎経済再生担当大臣、堀内詔子ワクチン接種推進担当大臣と相次いで初会

談を行った。十二日の後藤大臣との会談では、中川委員長は、大臣就任へ(2面へ)



自見先生からのご寄稿いただきました

参議院議員 自見はなこ 活動報告

「国民医療の発展に向けて」



日本医師連盟の先生方におかれましては、平素より温かいご理解とご支援を賜り、誠に有り難うございます。今般の衆議院議員選挙においても、多大なご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症を巡っては、九月末で全国での緊急事態宣言が解除され、十月の時点で国民の六割超が二回目のワクチン接種を終えるなど、医療現場を担う先生方の献身的なご尽力の甲斐あっていったんは小康を迎えております。この間に、しっかりと医療提供体制を整え、冬に備えなければなりません。診療報酬については、初・再診五五などの特例措置が九月末で終了となりましたが、感染症対策に要するから増し経費の補助、発熱患者への対応やコロナ患者を診る場合の診療報酬上の支援については、十月以降新たに行われることとなりました。また、小児外来における特例については、医科五十点、歯科二十八点、調剤六点として当初のとおり継続となりました(二〇二二年三月まで)。

現在、岸田文雄内閣総理大臣、後藤茂之厚生労働大臣の新体制のもと、政府では病床や医療人材の確保のほか、自宅療養に対応できる体制整備などといった



10月13日 自民党女性局の衆議院選挙に向けた決起大会

また、岸田政権として初の国政選挙となった静岡県と山口県での参議院補欠選挙を皮切りに、衆議院議員選挙、私自身が候補者として臨む来年七月の参議院議員選挙、さらには各地の地方議会選挙、首長選挙など、女性局長として全国の医師連盟の先生方と緊密に連携して頑張っております。

自由民主党女性局長を拝命いたしました

十月八日、岸田自民党総裁のもと、第九十四代女性局長を拝命いたしました。自民党女性局は、昭和三十年の自民党立党とともに前身となる婦人局が誕生して以来、女性ならではの視点で政治・政策を考え、女性活躍、

子育て支援などの政策活動や、全国各地で女性向けの勉強会や対話集会を行っております。とくにこのコロナ禍において、近年女性局が取り組んできた、児童虐待防止活動、子ども子育て政策、女性の健康問題、防災減災対策等へのさらなる課題が浮き彫りとなり、国民の関心が高いところが高まっています。全国の女性局組織の皆さまとの対話を通じて、こうした課題を深掘していくとともに、新興感染症対策や女性の視点からみる地域の課題等、昨今の新しい課題にも積極的に取り組んで参りたいと存じます。

また、岸田政権として初の国政選挙となった静岡県と山口県での参議院補欠選挙を皮切りに、衆議院議員選挙、私自身が候補者として臨む来年七月の参議院議員選挙、さらには各地の地方議会選挙、首長選挙など、女性局長として全国の医師連盟の先生方と緊密に連携して頑張っております。

HPVワクチンの積極的勧奨再開へ大きく前進



森下千里候補の応援(宮城県)



勝目やすし候補の応援(京都) 京都府医師連盟の松井道宣委員長とともに



西銘恒三郎候補の応援(沖縄県) 沖縄県医師連盟の安里哲好委員長とともに

八月三十日、「HPVワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟」(会長・細田博之衆議院議員、事務局長・自見はなこ)として、加藤勝信内閣官房長官と田村憲久厚生労働大臣(ともに当時)への要望申入れを行いました。ノーベル生理学・医学賞受賞者である本庶佑京都大学名誉教授にもオンラインで要望の申入れにご参加いただき、先進国のなかで日本だけが取り残されている現状を変えなければいけないと力強いメッセージをいただきました。加藤官房長官からは、科学的事実を踏まえて議論していかなければならないことを強く認識している旨のご発言を、田村大臣からは、積極的勧奨再開に向けた検討が動いていない現状を見直すことについて前向きなご発言をいただきました。

九月十六日には、参議院厚生労働委員会が質問に立ち、積極的勧奨再開に向けた議論に臨まれる田村大臣の意気込みを伺い、「審議会ですっかりと議論したうえで判断する」と力強い決意をお示しいただきました。田村大臣は、翌九月十七日の閣議後記者会見で「十月中の早い時期に審議を始めたい」、「来年度から始まることも否定しているわけではない」と、二〇二三年度の再開も視野に審議会で議論する意向を表明されました。

そしてついに、十月一日開催の厚生科学審議会(予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)においてHPVワクチンの積極的勧奨再開について検討が開始されました。

十月十二日、議員連盟の第九

回総会を開催。厚生労働省から、HPVワクチンの安全性・有効性に関するエビデンスが蓄積されていることや、HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援策を踏まえて、積極的勧奨再開に向けて検討を進めていく旨の報告がありました。また、新型コロナウイルスワクチン関連業務も山積するなかで、HPVワクチンに関する施策を進めるため、医系技官の募集に関する案内もあり(QRコード参照)、私からもオンラインで出席した日本小児科学会や日本産婦人科医会の先生方にご協力をお願いいたしました。さらに、厚生労働副

大臣在任中に議員連盟の役職から離れられていた三原じゅん子参議院議員の議員連盟幹事長再任と、厚生労働大臣を退任された田村衆議院議員の顧問就任も決まりました。

一日も早い積極的勧奨再開に向け、引き続き取り組んで参ります。

「こども庁」創設に向けて

二〇二二年二月二日に「Childan First」の子ども行政のあり方勉強会」を立ち上げて以来、四百名を超える自民党地方議会議員の皆さまにも政策議論に参画していただきつつ「こども庁」創設に向けて邁進しています。勉強会で二度の提言取りまとめを行い、党、政府に働きかけた結果、六月十八日閣議決定の骨太の方針に「早急に検討に着手する」と盛り込まれ、七月七日に内閣官房長官のもとに「こども政策の推進に係る作業部会」

厚生労働省における医系技官の人事交流について(お願い)

「こども庁」創設に向けて

「こども庁」創設に向けて



厚生労働省における医系技官の人事交流について(お願い)

「こども庁」創設に向けて

(4面へ)

(3面より)

が設置され、九月十六日には内閣官房に「こども政策の推進に係る有識者会議」が立ち上がり、来年の通常国会に設置法の提出が予定されるなど、大きな進展がありました。

九月に行われた自民党総裁選に際し、次期総理・総裁にも「こども庁」創設とこども政策の充実を力強く進めていただきたいという想いから、九月二十二日に四人の総裁候補全員にお声がけをして「こども政策公開討論会」を開催しました。会場出席の河野太郎候補、岸田候補、野田聖子候補と、ビデオ出演による高市早苗候補からそれぞれこども政策への所見を表明いただいたほか、事前に質問項目をお伝えしてマルバツで回答いただく形式で実施した質疑では、「こどもに関する予算、家族関係支出を倍増すべきである」、「こども政策を所管する専任大臣を置き、強い権限を与えるべきである」、「自民党の地方組織と連携をとってこども政策を進めていくべきである」に對し、候補者全員がマルと回答されました。

その他、「こども庁」創設について

て、平井伸治全国知事会会長や四百二十七名の自民党地方議員による総裁候補への要望もあり、大変有意義な機会となりました。

九月二十九日、岸田候補が自民党新総裁に選出され、十月四日には臨時国会で第百代内閣総理大臣に指名されました。また、野田候補が少子化・こども政策担当大臣として入閣されました。菅義偉政権のもとで大きく進展してきた「こども庁」創設の議論は、岸田政権にもしっかりと引き継がれています。岸田総理は、十月十二日の衆議院本会議で、「子ども目線に立ち、縦割りを排した行政を進めていく想いに何ら変わりはない」と、来年の通常国会への関連法案提出を念頭に進めていく意向を示されました。

平素より私の政治活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、このような連載の機会をいただき日本医師連盟の委員長・会員としてご関係の皆さまに御礼申し上げます。国会では岸田文雄自由民主党総裁が第百代の内閣総理大臣に就任されました。十月十四日に衆議院を解散し十月三十一日投票で衆議院議員選挙が行われます。

羽生田先生からご寄稿いただきました 参議院議員 羽生田 たかし 活動報告



設当たり三・五億円のマイナスであります。コロナ補助金の目的は、緊急体制整備と患者受入れ体制強化、新規雇用などの人員確保をはかることが主体であり、単純に儲かったような印象を与える報道のあり方には憤りを感じました。その報道の奥に診療報酬改定が見え隠れし、診療報酬を上げるといふ議論にさせないためのイメージづくりであります。

投資などを先延ばしにして何とか地域医療を守るために存続してきたのであります。仮に、補助金による黒字化であったとしたら、これまでの医療政策が間違っているのであり、過不足ない医療提供体制の確保は患者・国民の安心のためだけでなく、国や地方自治体の責務でもあることを忘れてはなりません。

岸田総理が「社会の基盤を支える現場で働く方々の所得向上」を掲げられました。医療従事者の所得は診療報酬のなかに含まれております。この診療報酬には治療を行う技術料だけでなく、病院の維持管理費や医療機器のリース代・購入費・管理費・材料費、そして医療従事者を含む病院で働くすべての職員

解散を目前にした十月十一日に財政制度等審議会財政制度分科会が開催され、そこで財務省から出された資料を基に、「コロナ補助金によってコロナ対応病院が六・六億円の黒字収入であった」と報道されました。直前の二十年度は平均で一施設

解散を目前にした十月十一日に財政制度等審議会財政制度分科会が開催され、そこで財務省から出された資料を基に、「コロナ補助金によってコロナ対応病院が六・六億円の黒字収入であった」と報道されました。直前の二十年度は平均で一施設



群馬県集団接種会場にて執務

現場の真実、先生方が現場で支えていらっしゃる地域医療の現実を知らないがゆえの愚かさを感じております。

悪意のある誤った認識の報道として、診療報酬は医師の懐に入る金であると無責任なコメントーターが発信しますが、医療



奈良県医師会安東範明会長と面談



山口県医師会訪問



9月22日 こども政策公開討論会



安藤たかお衆議院議員・全日本病院協会猪口雄二会長との鼎談



埼玉県医師会金井忠男会長・古川俊治参議院議員との鼎談



大阪府医師会理事会にて挨拶



岡山県医師会理事会にて挨拶



徳山医師会病院訪問